

資料 1

文化芸術部会報告

【協議経過】

(1) 第1回文化芸術部会 7月2日

○議事

- ・文化芸術部活動の現状
- ・地域移行に向けて
　　地域の現状、他市町村の取り組み

○主な意見・方向性

- ・吹奏楽部は楽器により、専門性があるため、指導が難しい
- ・子供たちがやりたいことが放課後や空いた時間で活動できる環境があれば、豊かになる。吹奏楽と他の部活動を別の考え方で進めることも考えられる。
- ・学校が主導ではない。部活動の概念をなくさないといけない。部活動はなくなると言った方が、いいのではないか。
- ・吹奏楽部が拠点校になると楽器の移動が困難。違う形がよいと考える。

(2) 第2回文化芸術部会 10月24日

○議事

- ・文化芸術部活動の現状と課題について
　　吹奏楽部顧問からの聞き取り
- ・文化芸術部活動の地域展開事例紹介
　　スキップ型、エンジョイ型（新潟県佐渡市、北海道北見市）
- ・文化芸術部活動の地域展開の考え方について
- ・今後のスケジュールについて

○主な意見・方向性

- ・パソコン、美術、ボランティアは個人の嗜みとして考えられる。吹奏楽でも個人の嗜みとしてやりたい子もいる。
- ・エンジョイ型で多種多様な経験が得られることが提供できれば、活動が広がる可能性がある
- ・吹奏楽初心者はコツをつかむまでが難しい。コツをつかんで、楽譜が読めるようになれば、一人でやるのも楽しくなる。
- ・吹奏楽部のなかでもやりたい方向性が違う子もいる。
- ・吹奏楽を楽しめる場所としての活動場所を考えるという考え方もできるのではないか。本気でやりたい子は吹奏楽団に入ることもできる。
- ・地域クラブに対し、エンレイホールで演奏、練習できるというアドバンテージをつくるのはどうか
- ・50人の団体でコンクールに出場する場合、A編成となり、課題曲、自由曲の2曲の演奏となるなど難しいものに出場することとなる
- ・吹奏楽は4、5箇所の練習場所が必要。同じ場所で行うと聞こえない楽器がある。

資料 1

- ・指導者（顧問、指導者）への対価があれば、指導への意識が変わるかもしれない
- ・まずは地域の指導者として顧問に報酬を渡す方がいいのではないか。
- ・地域の指導者探しと並行して顧問に対価を出す仕組みを検討する必要があるのではないか
- ・運動部との差がないように進めてほしい。
- ・吹奏楽は保護者の経済負担が大きく、行政の力を借りないと難しいのではないか。

【状況報告】

（1）地域展開の方向性

生徒のニーズやベクトルにあった活動ができる環境づくりについて検討する。

- ・スキップ型 地域団体等と連携し、スキルアップを目指す。
- ・エンジョイ型 年間を通して多様な活動を行い、文化芸術活動を楽しむ。

（2）課題整理

- ・地域団体の活動内容等の調査
- ・地域で行うプログラムの整理や仕組みの検討
- ・地域展開を進めるタイミング
- ・吹奏楽の楽器の移動、保管
- ・活動場所の確保
- ・初心者の対応（指導方法等）
- ・楽器の購入、修理費、消耗品の負担